

(渡良瀬遊水地保全・利活用協議会部会資料)

## 渡良瀬遊水地に関する取組みの一例について(栃木市)

### 1. はじめに

渡良瀬遊水地の面積の 71.2%を有する栃木市は、治水を前提に、歴史を踏まえて渡良瀬遊水地の保全、利活用に取り組めます。

### 2. ハートランド構想について

渡良瀬遊水地内の谷中湖(渡良瀬貯水池)がハートの形をしていることから「ハートランド構想」を昨年度、発表しました。これは、仮想の国「ハートランド」に住む「ハート姫」を中心に、この国(渡良瀬遊水地)をみんなで愛し、守っていくストーリーを設定することで子どもたちからお年寄りまで、幅広い年齢層の皆様に渡良瀬遊水地について楽しみながら理解してもらい賢明な利活用のための事業展開を図るものです。

### 3. ハートランドプランについて(平成26年度中に策定)

- ・ハートランドは今を守ります。
- ・ハートランドは守り人を大切にします。
- ・ハートランドは連携を大切にします。
- ・ハートランドは地域を輝かせます。
- ・ハートランドは未来に繋がります。

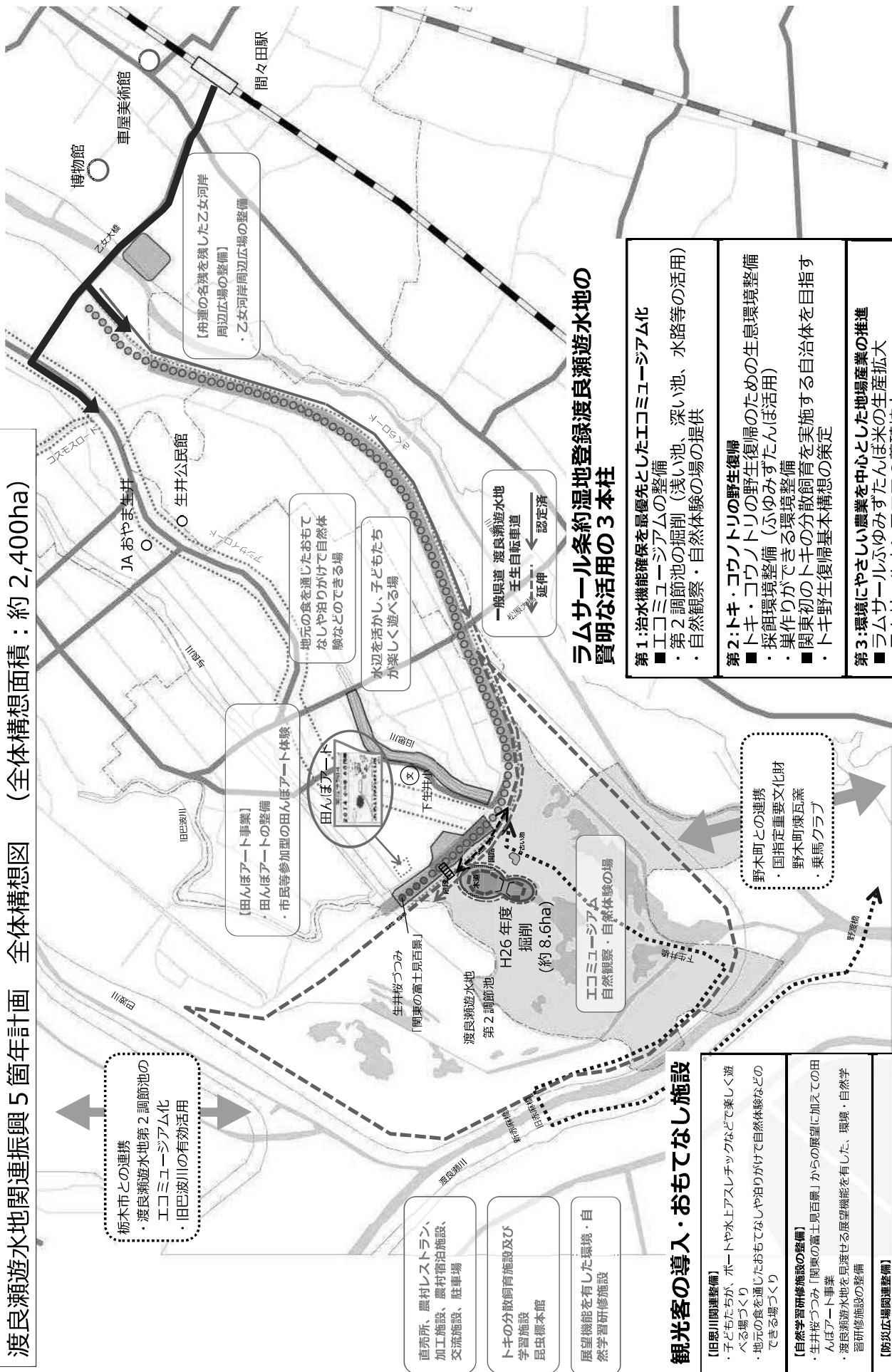
### 4. 渡良瀬遊水地ボランティア養成講座について(守り人の育成・支援)

渡良瀬遊水地は人の手が入ることで、今の治水環境や自然が守られ、今の歴史が語られ、今のレジャー・スポーツが行われてきました。これら全てに関わっている人々によって成り立っています。本市はこのことをとても重要なことと捉え、将来に向け、これらを支える人々をさらに集め、育てていきたいという目的で、昨年度より本格的なボランティア養成講座を開設いたしました。

### 5. 最後に

本市は、遊水地に占める面積や関連事業・行事の多さ等からみても、遊水地のより良い環境の維持、増進に果たすべき役割と責任の大きさを真摯に受け止めつつ、これらに対応していきたいと考えています。これらは、栃木市のみで行えるものではなく、関係各位と連携を密にして協力して取組みを推進していく必要があると痛感しています

渡良瀬遊水地関連振興5箇年計画 全体構想図 全体構想面積：約2,400ha



ラムサール条約湿地登録渡良瀬遊水地の  
賢明な活用の3本柱

- 第1:治水機能確保を最優先としたエコミュージアム化
- エコミュージアムの整備
  - ・第2調節池の掘削（浅い池、深い池、水路等の活用）
  - ・自然観察・自然体験の場の提供
- 第2:トキ・コウノトリの野生復帰
- トキ・コウノトリの野生復帰のための生息環境整備
  - ・採餌環境整備（ふゆみずたんぼ活用）
  - ・果作りができる環境整備
  - 関東初のトキの分散飼育を実施する自治体を目指す
  - ・トキ野生復帰基本構想の策定
- 第3:環境にやさしい農業を中心とした地域産業の推進
- ラムサールふゆみずたんぼ米の生産拡大
  - ラムサールホンモロコシの養殖拡大
  - ヨシ活用の推進（地域産業の振興）
  - ・小中学校へのヨシの設置、ヨシ紙・ヨシ堆肥づくり

観光客の導入・おもてなし施設

- 【旧恩川関連整備】
- ・子どもたちが、ボートや水上アスレチックなどで楽しく遊べる場づくり
  - ・地元の名産を通じたおもてなしや泊りがけで自然体験などのできる場づくり
- 【自然学習研修施設の整備】
- ・生井桜つつみ「関東の富士見百景」からの展望に加えての田んぼアート事業
  - ・渡良瀬遊水地を見渡せる展望機能を有した、環境・自然学習研修施設の整備
- 【防災広場関連整備】
- ・防災広場の整備
  - ・第2調節池周辺の広域天端の活用
  - ・恩川桜の植樹

水と緑と歴史のまちづくり基本構想

〈野木町総合政策部政策課〉

野木町では、平成26年度に「水と緑と歴史のまちづくり基本構想」を策定いたします。第7次野木町総合計画「のぎ未来プラン」においては、主要プロジェクトの一つとして「水と緑と歴史のまちプロジェクト」を位置づけ、地域資源を活かしたまちづくりを推進してきました。

本基本構想は、平成24年7月にラムサール条約登録湿地に登録された渡良瀬遊水地及び、その周辺にある地域資源（野木町煉瓦窯、水辺の楽校、野木神社等）を活かした交流促進及び地域振興することを目的に策定いたします。

下記対象地域を基本として、野木駅からのアクセスや散策ルートなどのネットワークについては、周辺のエリアも含めた範囲で検討をします。

